

保坂展人 区長 殿

新区長への緊急申し入れ書

東京都・世田谷区・杉並区・京王電鉄株式会社の四者の主催で予定されていた3月16日から3月28日までの説明会は、3月11日の東日本大震災（以下3・11大震災）を理由に3月16日の初日に突然、延期することが伝えられました。

しかしながら、今度は、世田谷区長選で新区長誕生の激震のニュースと同時に、今度は新区長の意向も確かめぬままに311震災前の都市計画案と環境影響評価書のままで再度、公告・縦覧と説明会を開始されるという情報が伝わってまいりました。

既に、私たちは3月23日に緊急申し入れ書を石原慎太郎都知事と熊本哲之世田谷区長（当時）と田中良杉並区長に提出し、3月11日の震災での東北新幹線の高架橋の橋げたの崩落という事実を重んじて、今回の都市計画自体の抜本的見直しの諸要求を提出しました。

公告・縦覧と意見書提出の手続きの中止も求めましたが、行政は強行しましたので、やむなく4月20日の締切日に私たちは約1800名の意見書を東京都、世田谷区、杉並区にそれぞれ届けました。

その折にも今回の大震災を踏まえての連立事業の都市計画の抜本見直しを強く求めましたが、当局からは何らの真摯な回答はありませんでした。

3月に予定されていた説明会の延期について担当者は余震が続き会場の安全対策も取れないという理由も挙げていましたが、そうであればこそ、直下型の「想定外」の地震に対応した計画に改めるべきですし、相対的に地震に強い地下化事業への転換こそ有効ともなってくるはずです。

しかるに、事業計画再検討についての解答もないままに、新区長就任以前の4月26日に旧区長の管轄下で5月9日公告・縦覧、5月16日から5月28日までの説明会開催の通知が発行され、突き進むという対応は役人専制以外の何ものでもありません。

旧区長から新区長に引き継ぐというのであれば、まず何よりも私たち区民の申し入れへの交渉の継続を役人は新区長に正確に引き継いでもらなければなりません。

区民とそれこそ車座になって、「聞き置く区政」からの脱却を図って頂きたいのです。

今回の京王線連立事業は東京都が主体となっておこなう事業ですが、地元関係区は負担金も負担し、関連側道の都市計画や駅前交通ロータリーの都市計画は区の担当です。3・11大震災で二重三重に安全性を高めてあるはずの新幹線高架橋の橋げたが粉々に崩れた事例は阪神・淡路震災でJR線が崩落したのとあいまって、大地震から沿線区民の安全を守るために対策を強化しなければならない大きな課題です。この課題を追求すれば、相対的に安全度の高い地下化への転換が合理的におこなわれるようにならざるを得ないでしょう。だからこそ、姑息にも、3・11以前の計画を延命させようとして躍起になっている

としか考えようがありません。

原発事故が行政と民間の利権がらみの人災であったように、ここで間違えると、都市計画において同じ過ちを繰り返すことになります。

ちなみに、かねてから、私たちが主張しているように鉄道をシールド地下化し、空いた鉄道上部を緑道化するように転換すれば、非常時には帰宅困難者の避難路としても使え、また、日常は都市空間における憩いの場や生態コリドーにもなり、一举両得、一举三得の価値を生むことが出来ます。

党派を超えた支持を集めた区民の区長にふさわしい行動をぜひともお願いいたします。

記

- 1、 新区長として、旧区長時代に決めた関連側道等の都市計画について、検証もなしに、再度、公告・縦覧することを拒否してください。
- 2、 新区長としては、旧区長が3月の公告・縦覧手続きで収集した住民意見書を参考にし、また新たな意見聴取や検討を経て、3・11震災以前の連立事業都市計画案および関連事業の見直しを行い、3・11大震災以後にふさわしい都市計画のあり方を東京都や国に働きかけることを約束してください。
- 3、 新区長として連続立体事業調査等の基礎調査情報を東京都や国から収集すると共に、情報公開を徹底することを約束してください。
- 4、 新区長として、京王線連立事業問題についての住民との車座集会をおこなってください。
- 5、 万が一、住民説明会がおこなわれることになった場合には、区長は会場に出席して、区民の質問や意見に答えてください。

以上

2011年4月30日

京王線の地下化と緑のまちづくりを求める会
連絡先；京王線地下化実現の会・京王線の地下化を求める会
世田谷区松原 1-52-4 松原一丁目会館 080-3413-8153